

特集

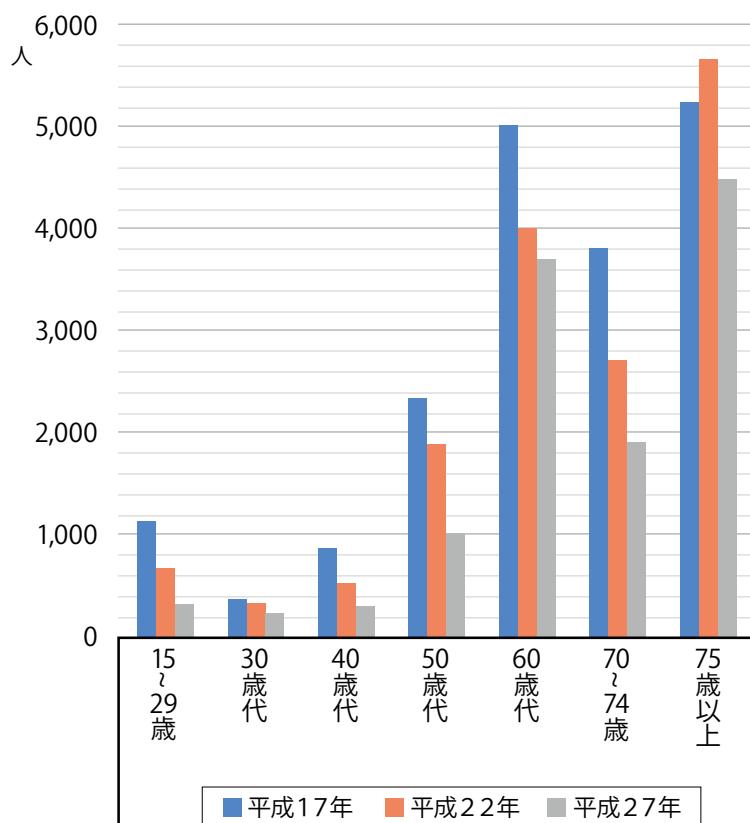
農業を始めてみませんか

～JAの新規就農者支援～

農林水産省の調査によると、日本の農業就業人口は約192万人（平成28年2月時点）。初めて200万人を下回ったと統計結果が出されました。就農者人口が減少してきている中、JAでは新規就農者確保に向け関係機関との連携を強化し、就農相談、就農準備に向けた研修、就農後の定着に向けた支援などに取り組んでいます。

今回の特集では、農業者の人口が減少している現状の確認と地域で農業にチャレンジしている生産者、そしてJAの新規就農者支援の取り組みについてご紹介いたします。

図1 農業就業者年代別推移



平成27年の販売農家の農業就業人口は約1万2100人。17年の約1万8900人から10年間で約6800人（約36%）減少しています。階層別には、40～50代にかけて約60%の減少となっている他、各階層で減少しています。また、70歳以上の農業就農者の占める割合は17年は48.1%でしたが27年は約5%上昇し53.3%となり、高齢化に拍車がかかります。（図1・表1参照）

●JA管内の農業就業人口

表1 農業就業人口（一関市、平泉町）

（単位：人）

| | 男女計 | | | 年齢階層別（男女計） | | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|------------|------|------|-------|-------|--------|-------|
| | 男性 | 女性 | | 15～29歳 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70～74歳 | 75歳以上 |
| 平成17年 | 18,875 | 8,417 | 10,458 | 1,143 | 378 | 883 | 2,358 | 5,030 | 3,825 | 5,258 |
| 平成22年 | 15,985 | 7,405 | 8,580 | 701 | 343 | 547 | 1,914 | 4,048 | 2,736 | 5,696 |
| 平成27年 | 12,092 | 5,927 | 6,165 | 343 | 252 | 311 | 1,015 | 3,722 | 1,940 | 4,509 |

資料：「2005、2010、2015農林業センサス」（農林水産省）

新規就農者の状況

一関農業改良普及センターのデータによると、平成24～28年の5年間で105人が管内で新規就農をしています。（表2参照）年代別では20～30歳の割合が60%を超しており、若い新規就農者が多いのが特徴となっています（図2参照）。

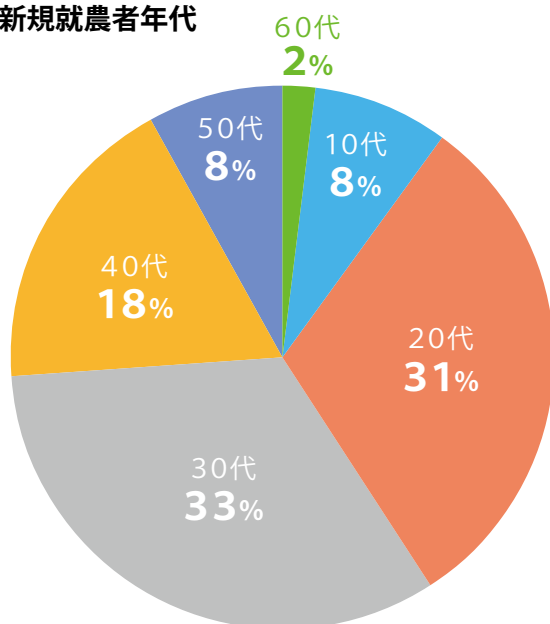
表2 直近5年の管内新規就農者数

（単位：人）

| | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 合計 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 10代 | 2 | 0 | 0 | 3 | 3 | 8 |
| 20代 | 6 | 3 | 10 | 7 | 6 | 32 |
| 30代 | 9 | 9 | 8 | 4 | 4 | 34 |
| 40代 | 6 | 5 | 3 | 1 | 3 | 18 |
| 50代 | 5 | 1 | 0 | 2 | 0 | 8 |
| 60代 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 不明 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 3 |
| 合計 | 30 | 18 | 21 | 17 | 19 | 105 |

資料：一関農業改良普及センター

図2 新規就農者年代



新規就農者の就農区分（表3）を見ると、最も多いのがUターン就農者となっています。Uターン就農者とは農家出身で学校を卒業して他産業へ従事し、その後、就農することをいいます。次に多い雇用就農者とは農事組合法人などの農業生産法人に雇われる形で就農することを行います。将来的には独立した経営を目指す人も、初めは法人で経験を積んでから独立を目指すことができる利点があります。

平成28年の新規就農者が取り組んだ作目（表4）を見ると、一番多いのが水稲、次にハウスなどで栽培する施設野菜となっています。

表4 平成28年取り組み作目

（単位：人）

| | |
|-------|----|
| 水稲 | 6 |
| 施設野菜 | 5 |
| 花き | 2 |
| 肉牛 | 2 |
| 酪農 | 2 |
| 養鶏・養豚 | 2 |
| 合計 | 19 |

資料：一関農業改良普及センター

表3 新規就農者の就農区分

（単位：人）

| | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 合計 |
|---------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 新規学卒者 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 4 |
| Uターン就農者 | 15 | 11 | 16 | 5 | 9 | 56 |
| 新規参入者 | 4 | 2 | 1 | 2 | 2 | 11 |
| 雇用就農者 | 11 | 4 | 3 | 8 | 8 | 34 |
| 合計 | 30 | 18 | 21 | 17 | 19 | 105 |

資料：一関農業改良普及センター

新規就農者 インタビュー

Q. 農業を始めたきっかけは？

A. 東京で仕事をしていたのですが、長男なのでいつかは帰郷しようと思っていました。平成27年に仕事のめどが付き帰郷してきました。農業をしようと思ったのは、父が作りあげた良い土や畑を生かしていきたいと思ったからです。

Q. 就農までの準備はどのようにしましたか？

A. 父がトマト・キュウリを生産していたので28年は手伝いながら知識や技術の習得をしました。29年からはトマト経営を任されて栽培をしています。

Q. 実際に手掛けてみてどうでしたか？

A. 今年の8月は天候に恵まれず、収量が多く見込める時期に採れません

でした。全てが初めての経験だったので防除のタイミングが難しく、初期対応が遅れてしまったところもありました。父やJAの担当者からアドバイスを受け対処をしていました。担い手班の巡回から学ぶことも多かったです。

Q. 今後の意気込みを聞かせて下さい

A. 他の生産者の事例を参考に、今年の経験で見つけた課題をクリアして、収量アップを目指します。

Q. これから就農する方に一言

A. 病害が広がると収穫に影響が出るのでおかしいと思ったことや分からないことは指導員や先輩生産者にすぐ相談することが大事だと思います。



きくち ひろのり
菊池 宏徳さん (37)
大東町摺沢

就農年：平成29年
品 目：トマト
規 模：20畝

Q. 農業を始めたきっかけは？

A. 祖父母が牛を飼っていて“いつかは自分が引き継ぎたい”と思うようになりました。中学卒業後、農業の基礎を学ぶため農業高校に進学しました。高2の時にホームステイをした宮崎の畜産農家に刺激を受け「やっぱり自分で牛を飼いたい」と思い、家族と相談し就農を決意しました。

Q. 就農までの準備はどのようにしましたか？

A. JAの担当者から一関市の新規学卒者等就農促進支援事業を紹介され、実際の農家や県立農業大学校の新規就農者研修に参加して知識と技術の吸収をしてきました。

Q. 実際に手掛けてみてどうでしたか？

A. 毎日の作業は大変ですが、自分が思っていた価格以上で販売で

きていると思います。市場に出荷する前日は、ちゃんと販売できるか心配で寝付けないこともありました。

Q. 今後の意気込みを聞かせて下さい

A. 頭数を増やして経営を安定させていきたいと思っています。経営管理を祖母に頼っているところがあるので自分でもできるように覚えていきたいです。

Q. これから就農する方に一言

A. 農業を始めるためにはさまざまな情報が必要だと思います。まずはJAなどに相談して自分に合ったプランで進めていって欲しいです。



おばら たくむ
小原 琢夢さん (20)
東山町長坂

就農年：平成29年
品 目：和牛繁殖
規 模：13頭

J Aは農業を始めたい皆さんを応援します！

新たに農業を始めるには、農業技術の修得はもちろん、農業機械・施設の導入、資金調達や経営計画づくりなど、たくさんの準備が必要です。J Aと関係機関では、これらのさまざまな課題に対して、多様な事業を営む総合力を生かし、ステージやニーズに応じたサポートを行っています。

◎農業を始めたいけれど何をしたらいいの

J A・市町・県など関係機関で構成する一関地方農林業振興協議会では、就農に向けた個別相談を行う、新規就農ワンストップ相談窓口を毎月第2水曜日に開催しています。J Aも受け付け窓口となっておりますのでお気軽にご相談ください。また、J Aでは農業を始めたい方を対象に「園芸だよ全員集合」を毎年開催し、野菜・花きなど主要品目の現地見学会と説明会を行っています。

Q. 生産技術を学ぶには？

A. 次の研修支援事業があります。詳しい内容・条件等につきましては下記までお問い合わせください。

| 事業名 | 事業主体 | 内 容 |
|-----------------------------|------------|---|
| 新規学卒者等 就農促進事業 | 一関市 J A | 一関市内で就農を希望する方に対し、雇用による栽培研修や座学研修等、就農に向けた研修を行います。市がJ Aいわて平泉に事業を委託します。 |
| 平泉町新規 就農者支援事業 | 平泉町 | 平泉町の農業を担う者の育成・確保とその定住の促進を図るため、新規就農者に対して、補助金を交付することにより新規就農を支援します。 |
| 農業次世代人材 投資事業交付金 (準備型) | 国 | 次世代を担う農業者となることを志向する方に対し、就農前の研修を後押しする資金（準備型（2年以内））を交付します。 |
| 農の雇用事業 | 県 | 農業法人などが行う雇用研修に対し研修費を助成します。 |

Q. 資金の準備は？

A. 次の経営支援事業があります。詳しい内容・条件につきましては下記までお問い合わせください。

| 事業名 | 事業主体 | 内 容 |
|-------------------------------|------|---|
| 農業次世代人材 投資事業交付金 (経営開始型) | 国 | 次世代を担う農業者となることを志向する方に対し、就農直後の経営確立を支援するため、最長5年間、年間最大150万円（夫婦経営は225万円）を交付します。 |
| 就農支援資金 | 国 | 青年等就農計画の認定を受けた方を対象に、無利子で貸し付けします。（就農準備資金、就農施設等資金） |
| J Aいわて平泉 黄金の郷づくり 推進対策事業 | J A | 経営規模拡大対策等 |
| J Aいわて グループ担い手 サポート事業 | J A | 各種助成支援、税理士等によるコンサルタント費用支援、資金相談（農業担い手サポート事業） |

相談・問い合わせ先

- ・ J A営農振興課 ㊟23-9176（西部）
㊟75-3311（東部）
- ・ 一関農業改良普及センター ㊟52-4961
- ・ 一関市農林部農政課 ㊟21-8421
- ・ 平泉町農林振興課 ㊟46-5564

J Aから一言



営農振興課
藤野 秀一 課長

J Aは新規就農者の支援・育成に向け、関係機関と連携した取り組みを行っています。J Aだけでは不十分な面を行政など関係機関と協力することで、就農を考えている方の不安を解消し、就農計画を達成するまでサポートしていきます。就農を考えている方はお気軽にご相談ください。